

(別紙)

教育委員会の点検・評価
(平成27年度分)
報 告 書

平成28年 6 月
境港市教育委員会

【目標３：社会教育の充実】

事業名	読書活動推進大会開催事業		担当課	生涯学習課
事業の目的	・ブックスタートに始まり、「朝読」、「ファミリー読書」というように、赤ちゃんから大人まで生涯を通した読書活動の推進を図る。 ・「読書まつり」を実施し、読書の楽しさ・大切さを伝える。			
事業概要	・読み聞かせ団体等による読み聞かせ、読書に関する展示、その年々のテーマに沿った講演会等を開催し、様々な形で読書活動を市民に周知し生涯読書の推進を図る。 ・平成２４年度から「読書活動推進大会開催事業補助金」として実施。			
実施状況	◎テーマ 『境港市読書まつり』～赤ちゃんから大人まで本で楽しいひとときを～ 日時場所 １１月２９日（日）１１:００～１５:３０ 市民図書館周辺 参加人数 約３５０人 ・講演会 演題：『図書館の可能性』 講師：松田暢子さん(日野町図書館長) ・子ども科学体験教室（米子工業高等専門学校出前講座） ・赤ちゃんを対象としたお話会（境港親と子どもの劇場） ・大活字本 大型絵本の展示 ・「きらめく蔵書票展」 ・学校図書館展示（各小・中学校図書館の取り組みを紹介） ・読みメンによる読み聞かせ ・１箱本屋さん（一般公募） ・故事成語展 ・写真展示・・・家族と本のある風景（一般公募） ・手作りカフェ、バザー（境港市女性団体連絡協議会） ・本に関する図書館クイズラリー（６箇所） ・教科書展示			
予算額	１０２千円			
成果・効果	・「きらめく蔵書票展」や「読みメンによる読み聞かせ」、「故事成語展」等新しい取り組みが好評だったこともあり、非常に多くの方にお越しいただいた。 ・子ども向けのチラシが分かりやすく良かった。 ・『図書館の可能性』という演題で講演会を行っていただき、図書館建設を控える本市にとって有益だった。			
評価	◎	順調		
課題・問題点	・「読みメンによる読み聞かせ」など、想定を上回る来客があり、対応に苦慮する場面があった。様々なことに備える体制づくりが必要。 ・「学校図書館展示」や「本に関する図書館クイズラリー」などの開始時間が、うまく周知出来ていなかった。			
検討事項	・市民への広報が足りないとの指摘もあった。更なる広報の検討。			

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・ボランティアによる学校での読み聞かせは、子どもたちに大変好評ですが、家庭での読み聞かせや読書習慣の推進が家庭の教育力向上、ひいては地域文化の向上に資するものは非常に大きいと思います。講演会等の中央での催しと平行して、生涯学習課と公民館・学校・ＰＴＡなどが連携し、各地区の公民館で地域住民に直接働きかけをしてはいかがでしょうか。以前、山田晋先生を公民館に招いて大好評を博した事も有ります。公民館職員や読み聞かせボランティアの研修にもなると思います。

【目標3：社会教育の充実】

事業名	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	- 子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している。未来を担う子どもたちの健全育成を図るため、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを引き続き目指す。 - 学校・家庭・地域の連携協力のための様々な取り組みを支援し、社会全体の教育力の向上を図る。		
事業概要	- 平成20年度より教育委員会事務局内に学校支援コーディネーターを配置し、市内小中学校10校と学校ボランティアとの調整を図りながら、学校の要望に応じて様々な教育活動を支援する。 - 国の委託事業を平成23年度から国県の補助事業として実施。 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」（市1/3負担）		
実施状況	- 学校の要望に応じて様々な教育活動を支援した。 →登下校安全指導、読み聞かせ、環境整備等 「コーディネーター便り」を配付し、事業内容の啓発を図った。 配布先：学校、保護者、公民館、当該ボランティア等		
予算額	1,151千円		
成果・効果	- 平成26年度に不審者の出没が多発した。それ以後、見守り活動が広がっている。それに伴い、不審者が出没する事案が減少した。 - ボランティア登録人数が昨年度に引き続き本年度も大幅に増加している。（215名→291名）		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	- 広報をしているが、中学校からの依頼につながらなかった。 - 地域により登録に偏りがある。引き続き、登録者の増加に努める必要がある。		
検討事項	- 本年度、「読み聞かせ」の小中学校間の交流を企画し、同意を得ている。平成28年度は、実施につなげる。 - 中学校から読み聞かせの相談を受けている。これを実施につなげる。また、環境整備等も依頼につなげる。		

※ 学識経験者による指摘・助言

- 外江地区においても、「読み聞かせ」「下校時の防犯（見守り活動）」「地域住民と学童のふれあい事業」が継続的に実施されていて、少しずつ成果を上げているように思います。見守り活動は、過去において、より充実したものを目指し組織を大きくしたために、小回りがきかなくなり失速した苦い経験があり、今は成果を欲張らず地道に継続して行くと言うことで活動を続けています。
- 中学校の読み聞かせには若干違和感があります。読み聞かせではなく、読書指導ではないでしょうか。それとも、中学校になるまで適切な読書指導がなされていないと言うことでしょうか。
- 孫が小学生の頃、学校便りで図書室から借りた冊数の多さを奨励するような記事を読み、その記事と冊数の多さに疑問を感じたことがあります。

【目標４：体育・文化の振興】

事業名	日韓口駅伝交流事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	・日本・韓国・ロシアの友好促進及び相互都市の発展のため、文化・スポーツなど多方面での交流を推進する。		
事業概要	・DBSクルーズフェリーの利用拡大による国際交流の推進を目的として、ロシア・ウラジオストク市と韓国・東海市から「第15回鬼太郎カップ境港駅伝競走大会」へ選手を招聘する。		
実施状況	・駅伝開催日 10月18日（日） ・駅伝コース サカイマリンマラソンコース（7区間） ・参加チーム チーム 78チーム （内訳：一般39、自衛隊4、大学7、高校28） ※ウラジオストク市から7名が参加。東海市チームは、国内大会と日程が重なったため不参加。		
予算額	2,020千円		
成果・効果	・主催者である日本海新聞に記事が掲載されることで、山陰地方全般にロシアの雰囲気やDBSクルーズフェリーが広報され、今後の国際交流の進展につながる事業となった。 ・ウラジオストク市選手が「境港ジュニアアスリートクラブ」に所属する地元の小学生と交流を図り、児童の国際理解の一助となった。		
評価	○	概ね順調	
課題・問題点	・東海市単独では選手の確保が難しい上、毎年同時期に国内大会が開催されるため、東海市または江原道からの選手招聘は今後も難しいと考えられる。選手の招聘範囲・渡航経費の負担方法等を検討する必要がある。		
検討事項	・東海市選手の参加が難しい場合、東海市以外の都市へ参加を呼び掛ける。		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・国内事情も異なるので、開催日の調整は大変だと思いますが「鬼太郎カップ」も「参加選手」にも明日に繋がる大会にしてほしいと思います。継続することで世間の認知度も高まり、魅力ある大会に成長すると思います。是非頑張って継続してください。もっと市民アピールし、沿道の応援が増えることを期待しています。
- ・スポーツイベントの隆盛は、山陰観光の空と海の玄関口境港市にとって大きな位置を占めるものになると考えます。

【目標４：体育・文化の振興】

事業名	小鉄和広コンサート運営補助金		担当課	生涯学習課
事業の目的	・市民会館の利用停止により、市民の文化活動が低迷するおそれがある中、市民が芸術に親しむ機会を提供する。			
事業概要	・市・文化振興財団・商工会議所・市内音楽関係者で組織する実行委員会が主体となり、境港市出身の音楽家・小鉄和広氏、マケドニア共和国文化大使を務めるブラゴイ・ナコスキ氏をはじめとする音楽家によるコンサートを実施する。			
実施状況	・「第2回国際交流音楽祭」 日 時：3月12日（土） 会 場：境港市文化ホール 出 演 者：小鉄和広（境港市出身）、ブラゴイ・ナコスキ（マケドニア共和国文化大使）、徳山奈奈（境港市出身）、島崎智子、山口佳代、シンフォニー少年少女合唱団 来場者数：336人			
予算額	1,000千円			
成果・効果	・ヨーロッパ各地で活躍する音楽家、ブラゴイ・ナコスキ氏をはじめ、一流の音楽家による演奏を鑑賞する機会を市民に提供することができ、演奏内容も来場者に好評であった。 ・共演したシンフォニー少年少女合唱団の子どもたちにとって、先輩である徳山奈奈氏の演奏は日頃の活動にとって大きな刺激となった。			
評価	○	概ね順調		
課題・問題点	・特になし			
検討事項	・市民会館（ホール）利用停止中、市民の文化活動が低迷することがないように、今後も市民が芸術に触れる機会を設けていく。			

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・第一線で活躍される郷土出身の演奏者を招いての催しは、それに続く者への励みにもなり、また市民の文化向上にも寄与し大変有意義だと思います。地域の教育・文化の向上は地域経済の発展に不可欠だと言っても過言でないと思います。（教育・文化水準の低いところに優秀な人材は集まらないから。）

【目標４：体育・文化の振興】

事業名	戦後７０周年記念展示開催事業	担当課	生涯学習課
事業の目的	・戦後７０年を記念し、戦争の悲惨さを後世に伝えるための資料展示・講演会を開催する。		
事業概要	・玉栄丸爆発事故・戦時中の市民生活等に関する写真・各種資料を展示する。 ・鳥取県内に残る戦争遺跡（美保基地等）について専門家から解説してもらうとともに、戦争体験者から、戦時中の生活、学徒動員等に関する体験を話してもらう。		
実施状況	・企画展 会期：８月４日（火）～１０日（月） 会場：境港市民会館（第１会議室） 来場者数 ２８６人 ・講演会 日時：８月９日（日） 会場：境港市中央公民館 講師：大嶋陽一氏（鳥取県立博物館） 篠田建三氏（伯耆文化研究会） 足立郁馬氏・角紀子氏（いずれも学徒動員体験者） 来場者数 ４８人		
予算額	１８１千円		
成果・効果	・玉栄丸爆発事故や戦時中の市民生活等に関する写真・資料に接するだけでなく、当時の体験を体験者から直接語ってもらうことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを市民が再認識する機会を提供することができた。		
評価	○ 概ね順調		
課題・問題点	・戦争の悲惨さを特に若い世代に伝えていくことが目的の一つだったが、企画展示、講演会とも来場者のほとんどが高齢者であり、若年層の来場者が少数にとどまった。		
検討事項	・戦争の悲惨さを後世に語り継いでいくため、今後も機会を捉えて企画展示を開催する。開催にあたっては、若年層が関心を抱くよう、内容や周知方法を工夫する。		

※ 学識経験者による指摘・助言

- ・戦争のむごさや悲惨さは、戦場や空爆による被害ばかりではなく、地方にも全国民の日常生活の中にもあった事を、後世に伝えることは大変重要なことだと思います。また、このような事業が継続できる世の中で有り続けてほしいと思います。
- ・戦時中、このような事業は軟弱思想だと弾圧されたと思います。